

消化器内視鏡センター

大腸がんは苦痛のない検査で早期発見・早期治療!

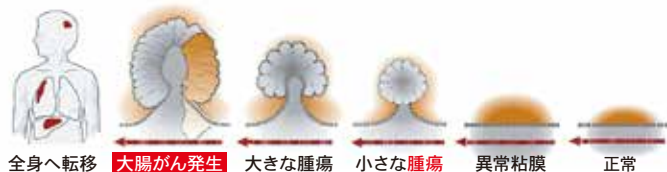
検査実績 年間5,000件以上の内視鏡認定施設

最前線医療を行く



大腸ポリープには、先の「腺腫」の他、がん化しない「過形成性ポリープ」「炎症性ポリープ」などがある。これらを見分けるのに最も適した方法が、NBI拡大内視鏡検査だ。NBI（狭帯光）という特殊な波長の光を当て、血管や表面の模様を浮き出させズーム機能で表面構造を観

内視鏡を用いた高精度検査 大腸ポリープの診断と治療

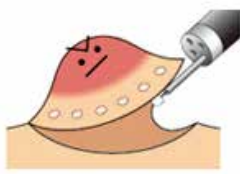


大腸がんの発生は、その多くが元々良性であった腺腫というポリープが進化し、がん化する。だからがん化する前に腺腫の段階で発見し治療すれば、多くのがん発生を予防できるそうだ。

● **大腸がんの危険因子**
 遺伝や肥満が知られており、飲酒や赤肉(牛・豚・羊)、加工肉(ハム・ベーコン・ソーセージなど)もリスクとされる。

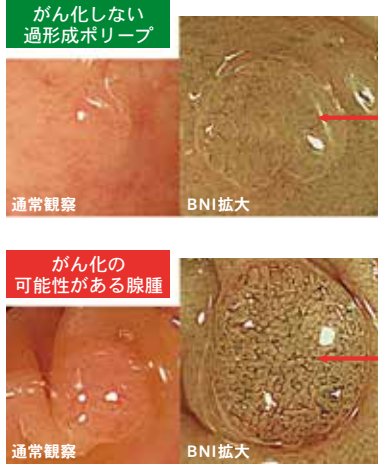
大腸がんはポリープから発生しやすい!

本人のがん部位別死亡順位数では、大腸がんによる死亡数は2位であり、増加傾向にある。その大腸がん撲滅に向けた西の京病院の取り組みを同院の消化器内視鏡センター長・塩谷淳医師に伺った。



内視鏡的粘膜剥離術イメージ

内視鏡検査で治療すべきと判断したポリープは、小さなものはコールドポリペクトミー(通電なし)、大きなものは内視鏡的粘膜切除や同下層剥離術(EMR・ESD/高周波装置)により切除する。



最大80倍の拡大観察! きれいな丸

無駄な細胞検査を減らすことができる 形が不揃い

苦痛のない鎮静下内視鏡検査

“痛くない、苦しくない”がモットーの同センター。鎮静下とは、静脈麻酔でウトウトしている間に検査を行うもの。また検査後おなか張りにくい炭酸ガス送気を用いるなどして、患者の負担を軽減し

大腸カメラと同日に胃カメラも可能



下剤を飲みつつ検査待機をする控え室。来春のお披露目の薬師寺東塔も望める。

大腸カメラで多量の下剤を飲むのが苦手な人も多いが、胃カメラ(鎮静)下で下剤を注入し、下剤を自分で飲む負担を減らすこともできる。

同センターは、二大がんの検査を、一気に効率よく済ませてしまうことができる数少ない施設。忙しい人や検査嫌いな人には好都合だ。

この麻酔は、効きが早く、醒めた後はすっきり消えるタイプなので、車で来院した人でも安心。



消化器内科医長 高山 政樹 医師 TAKAYAMA MASAKI
 消化器内視鏡センター長 塩谷 淳 医師 SHIOYA MAKOTO
 消化器内科医長 松木 信之 医師 MATSUKI NOBUYUKI

【内視鏡検査】

- 診療:月曜～土曜の午前・午後
- 電話予約可・予約専用ダイヤル TEL.0742-35-1215